

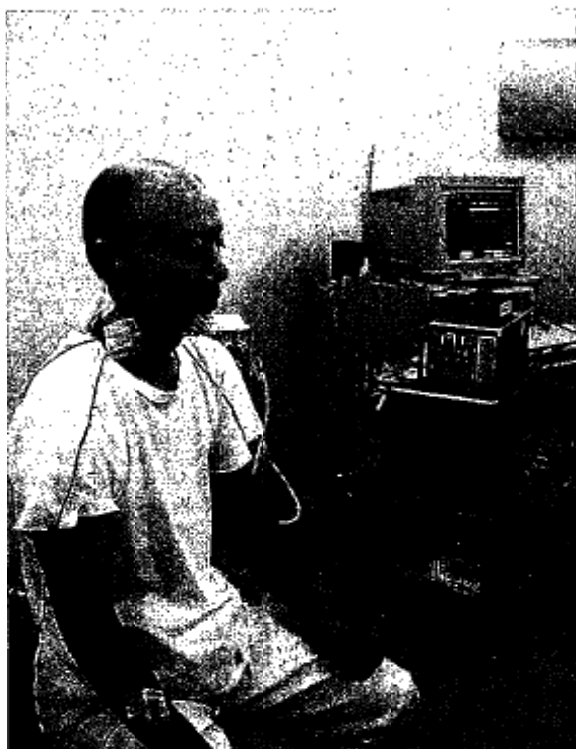
そうしたなか、関西医療大学神経病研究センター（大阪府熊取町）で同大保健医療学部の鈴木俊明教授が開発した理学療法と経絡、経穴（ツボ）の概念を組み合わせた鍼治療法が、静かな広がりを見せている。（服部素子）

脳の神経系の何らかの障害によって筋肉が不随意に収縮を続け、身体にねじれやゆがみが生じて自分の思い通りに動けなくなる難治性疾患「ジストニア」。原因が未解明のうえ、個々の症状の違いが大きく、治療も対症療法しかないのが現状だ。

「ジストニアは、中枢神経系の障害に起因する運動異常症の症候名。その症状は、首が傾く頸部ジストニア（斜頸）や、文字を書きようとする手が震える書痙など異常な

難治性疾患「ジストニア」

鍼治療で効果



頸部筋の筋電図検査
＝大阪府熊取町の関西医療大学

姿勢や動きとして現れます。しかし、MRI（核磁気共鳴診断装置）でも異常がみられず、診断も非常に難しい」と鈴木教授は話す。

改善を目指したところから。平成7年、同大学の前身である関西鍼灸短期大学附属診療所神経内科で、頸部ジストニア患者への鍼治療を神経内科医、鍼灸師とともにスタート。その効果を、臨床症状評価と筋電図学的評価から証明する治療システムを作り上げた。

臨床症状評価は疼痛評価など5項目で、筋電図学的評価と総合して、筋肉の過剰収縮や不随意運動などの一次的障害

ジストニア友の会 ジストニア患者同士の交流と情報交換、ジストニアに対する社会的認識を深めることを主目的に、平成17年に設立されたNPO法人。会員約120人。会報の発行や交流会、講演会を開催している。12月15日に東京都内で「ジストニアシンポジウム」を開催する予定。詳細はホームページ（<http://www.geocities.jp/dystonia2005/>）で。

害と、筋肉・皮膚の短縮や疼痛などの二次的障害を把握。それに応じた鍼治療を行う。治療は、刺入深度5mmの鍼を刺したまま留める置鍼法で、筋緊張抑制を目的とする場合は5分間、筋緊張促進を目的とする場合は10分間が基本だ。

理学療法と組み合わせ 顕著な改善例も

「当時、本学に知られる前に全員が薬物治療を受けており、MAB治療やボツリヌス治療、外科手術を併用していた人もいました。鍼治療と並行して薬物治療も行いましたが、他の治療法で症状の改善がなかった人でも、鍼治療の効果が見え始めました」と鈴木教授は話す。

国内には約2万人の患者がいると推定されているが、発症要因は遺伝性、外傷性、肉体的・精神的ストレスなどさまざま。また、職業性ジストニアとして、ピアノリストやギタリストなどで手に痙攣が起きて、演奏できなくなる演奏手塚などもある。

ジストニアの患者らでつくる「ジストニア友の会」の佐藤治子副理事長は「ジストニアは本来、神経内科を受診すべき疾患です。治りにくい病気ですが、早期発見と正しい治療で完治、症状改善の可能性はあります。西洋医学的な手法と鍼治療の併用で、より効果のある治療になれば」と話している。

NEWSPAGE
30歳からの出会い・結婚
充実の紹介&サポート
理想の結婚はサンマリエから
資料請求は今すぐこちら！

サンマリエ 検索
サンマリエ株式会社
0037-603-864-038